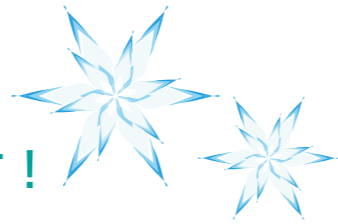


情報コーナー

～ 水ライフライン設備 ～ 災害時に地域住民に飲料水の提供が可能です！



当院では2005年にウェルシ社（東京）が開発した地下水膜ろ過システムを導入し、病院北側の駐車場近くで深さ160メートルから地下水をくみ上げ自前で飲料水を製造、使用しています。

同システムは「中空糸膜フィルター」（繊維状膜）を使った精密ろ過工程が特色で、水道水の水质基準をクリアした飲料水を毎時9トン製造可能です。先日、東日本大震災で被災した仙台市内の災害拠点病院が同システムを導入、市内断水時に非常電源でシステムを動かし院内に飲料水を供給できており大震災の揺れにも耐えたそうです。

停電時にはディーゼルエンジンの非常用電源を使い地下水をくみ上げます。当院のシステムは規模が大きく22時間稼働で198トンを製造可能です。

病院で利用する分を除き約100トンを緊急時などに提供することが出来ます。1日当たり1人2リットルとして、帯広市民約16万7千人の3分の1にあたる約4万9千人分をまかなえることになります。

ウェルシの前田昭朗北海道支社長は「塩酸でも死滅しないクリプトスポリジウム原虫（感染症原因）も除去でき、良質な地下水の安全性を高め、美味しく供給できる」と説明しています。

当院は東北出身の医師が多く、仙台市出身の富永院長は『大震災で先輩や知り合いが何人も亡くなった。人間の生命にとって水は非常に重要。水道が出るまで2ヶ月かかった被災地もあり大変苦労したと聞く。ライフラインが断たれたときに飲料水を提供して地域の役に立ちたい』との強い思いを持っています。今後、断水時には当院にきて飲料水の供給が受けれるようにする他、当院はまちの中心部にある立地から、給水車で運んで必要な地域にも配布しやすいため、行政と連携し具体的な手順を作成していきたいと考えています。



「水ライフライン設備」を説明する看板の前で富永院長（左）、ウェルシ担当者（右）

秋の健康レシピ

栄養科 管理栄養士 大塚 三奈

秋の味覚 キノコ

秋はキノコのおいしい季節。実はこのキノコ、体にやさしいとても優れた食材なのです。大きな特徴のひとつが、たっぷりの食物繊維。食品の中ではトップクラスです。

キノコの食物繊維に含まれる『β-グルカン』という成分は、免疫力を高め、生活習慣病やガンの予防に効果的です。また、野菜類には少ないビタミンDが豊富に含まれます。カルシウムの多い食品と一緒に摂ると、カルシウムの吸収を助け、骨を強くする働きをします。骨粗鬆症の予防や丈夫な骨を作るために、積極的に摂りたいビタミンです。キノコたっぷりのクリームシチュー、豆腐のキノコあんかけなどは、カルシウムとビタミンDと一緒に摂れオススメです。

☆ワンポイント☆

キノコ類は日光に干すとビタミンDの量が数千倍に増殖します。いったん増殖してしまえば、冷蔵庫に入れて時間がたっても減りません。どんな種類のキノコでも食べる前に一度太陽に当て、ビタミンDを増やしましょう。



患者様と医療スタッフの心を継ぐ情報誌



医心伝心

第19号

「総合内科・漢方外来のご紹介」

当院では幅広い診療を目指すため、「総合内科」・「漢方外来」・「在宅ワークステーション たなごころ」を開設致しました。今回は、これら新設科の特徴や今後の目標などについて、診療にあたって頂く酒井先生にお話を伺いました。

総合内科 科長

さかい たかし
酒井 俊 先生



「総合内科」について

■4月1日付けで総合内科科長に就任致しました。2002年10月に大阪から当地にやってきては8年余り。消化器内科を中心に多くの症例を経験することができました。

私は以前より、より幅広い見地で患者をみたいと考えておりました。救急患者から急性期、慢性期、そして在宅まで。患者一人一人とじっくり付き合ってみたいという思いがありました。これが今回立ち上げました総合内科の原点です。

■総合内科と申しますと、単なるプライマリー・ケア、振り分け役とのイメージを抱かれるかもしれませんが、私が考えている総合内科は、これとは異なります。あくまで自分たちで完結できる疾患に関しては完結させることを目標にしています。

ただし、更に高度の医療が必要と考えられる病態に対しては、早期に内外の専門医にコンサルトし、適切な医療を受けられる体制をとりたいと考えております。

■また当財団は第一病院という急性期病院を中心に、療養型病院、老健、訪問看護ステーションまで幅広い関連施設を持っております。これらを有機的に活用し、より地域に根ざした医療の実践を行いたいと考えております。そのためのツールとして、漢方外来、訪問診療、地域の感染対策を総合内科の3本柱にしたいと考えております。

略歴

- 出身地 奈良県
- 平成 3年 富山医薬大学薬学部卒
- 平成 10年 富山医薬大学医学部卒
- 平成 14年 帯広第一病院 赴任
- 平成 21年 内科副部長、臨床研修指導主任
- 平成 23年 総合内科 科長 就任

- 日本消化器学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本内科学会認定医
- 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
- ICD制度協議会 ICD医師

「漢方外来」について

■平成23年7月1日より、総合内科で「漢方外来」を開設いたしました。

■今後、増加する疾患としては高齢化に伴う退行性疾患（動脈硬化性疾患等）、あるいは自己免疫性疾患、治癒不能の悪性疾患、認知症を含めた精神科的疾患等があげられます。こうした疾患群の治療においては、現代西洋医学が明確な回答を持ち合わせていないのが現状です。

■東洋医学には何千年もの経験論に基づくパラダイムを有しており、西洋医学とは全く異なるものであります。すなわち病態に直接切り込むことは困難であっても、治療ができるという長所を持っております。東洋医学と西洋医学は相対するものではなく、互いに補完するものとの認識を私は持っております

【診療内容】

東洋医学では主に慢性に経過する疾患に対し漢方薬による治療を行います。

- ①検査では異常が無いといわれたが体調がすぐれない
- ②慢性的な疲労が続いている
- ③なるべくなら西洋薬を飲みたくない
- ④更年期といわれたがなんとかしたい・・・

などの症状の方にお勧めします。診察、検査、漢方薬処方保険適用となりますので一度受診してください。

受付時間 毎週水曜日 8:30～11:00





総合内科 在宅ワークステーション 『たなごころ』開設！



■平成23年7月1日より、当科では在宅ワークステーション『たなごころ』を開設致しました。

近年、医療が細分化・専門化することによって、私達は早期診断率の向上や治癒率の上昇等、恩恵を受けてきました。しかしその一方、専門的医療の狭間で行き場所を失ったり、終末期を迎えて急性期医療から外れ、病棟の片隅で孤独感に苛まれた患者さんが増加していることもまた事実です。

なるべく自宅でご家族と一緒に時を過ごしたい、でも適切な医療は受けたい…。患者さんのこうした御希望に少しでも応えたい、これが私達のワークステーション立ち上げの原点です。

■『たなごころ』とは文字通り、人の手のひらです。温かい手のひらで触られた時の温もりはなんとも心地よいものです。病棟回診の際、患者さんの腕にそっと手を添えると、ふっと表情が和むことがよくあります。また『たなごころ』には悩める人々を受け止める受け皿という意味もあります。

■訪問診療・看護を開始するに当たり、当ワークステーションでは『たなごころ』の持つ温かい感覚を、いかに患者さんに伝えていくかを理念とし活動していきたいと思っております。

■最後に、私はこれからこの十勝・帯広の皆様とともに地域医療に全力を傾ける所存ですので、今後とも御支援のほどよろしくお願い致します。



ドクターリレー

今年2月に副院長に就任された菅田先生よりコメント頂きました。



副院長

すがた ひであき
菅田 英明

略歴

平成6年 山形大学医学部卒
平成14年 東北大学大学院卒
東北大学第三内科入局
平成17年 帯広第一病院内科科長就任
平成23年 帯広第一病院副院長就任

日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本内科学会認定医

平成23年2月1日付けで、帯広第一病院副院長に就任致しました。仙台から帯広に降り立って6年が経過しようとしております。これまでは内科科長として、また地域医療の中核を担う病院の一員として、かねてより目標としておりました「消化器内視鏡分野での高度な医療提供を行い地域に貢献する」ことを実践すべく、平成21年4月には消化器内視鏡センターを立ち上げ、諸先生方の御支援を頂きながら専門色の強い診療が提供できるようにもなり、皆様の御期待に沿えるよう努力して参りました。

今後は、医師として診療を行うだけでなく「副院長」として、医師や看護師だけではなく薬剤師、医療事務を含めた全職員が「働きやすい仕事環境」となるよう整備していきながら、現場の意見を尊重しながら病院の進むべき方向性を模索していくところにも努力していききたいと思います。

ひいてはそれが当院を利用される方々にとって、「利用しやすい病院」となる最も大事なことだと考えております。今後地域の皆様から信頼され、質の高い医療を提供できる病院作りを目指して職員一同一丸となって努力していく所存でありますので、今後とも御支援下さいますようお願い申し上げます。

菅田先生はいつも精力的に診療にあたっておられ、いろんな立場の方々の言葉にも常に同じ目線で接して頂ける優しい先生です。今後、副院長先生としての手腕に期待です！

今年も「ピンクリボンキャンペーン」を開催します

20歳を過ぎたら要注意!乳がん検診を受けて早期発見で「大切な命と乳房」を守りましょう!

10月が『ピンクリボン月間』となっております。当院ではこの運動に賛同し、「ピンクリボンキャンペーン」として、乳がん勉強会と乳がん検診を実施しています。年々検診を受けるかたが増えています。今からご予約・ご相談承ります。

詳細は、健康推進室 Tel 0155-25-3121 まで

キャンペーンの内容

- ① 乳がん勉強会の開催（無料）
開催日：10月8日(土)・22日(土)・11月12日(土)
時間：午前10時30分～11時30分
内容：第1部 外科医師の講話（乳がんのお話）
第2部 乳がん患者会 あけぼの帯広 代表 久保 玲子様
「乳がん体験者として伝えたいこと」
第3部 保健師からの正しい自己検診法
- ② 乳がん検診の土曜日実施（有料）
開催日：10月3日～11月12日
第2・4・5土曜日を中心に予約
平日も予約可能
予約枠：土曜日は10人、平日は通常通り
※特別料金による実施です（助成対象外の方）

乳がん検診料金について

| | | |
|-----------|------------------|-------------------------|
| 10代～30代…… | (基本検診) (通常料金) | 触診+超音波検査 4,725円 |
| | 特別料金) | 3,500円(※) |
| 40代…… | (基本検診) (通常料金) | 触診+マンモグラフィ2方向 7,088円 |
| | (特別料金) | 5,750円(※) |
| 50代…… | (基本検診) (通常料金) | 触診+マンモグラフィ1方向 5,355円 |
| | (特別料金) | 4,100円(※) |

※オプションとして、超音波検査やマンモグラフィを追加可能
※上記特別料金、各市町村や共済・健康保険組合などの助成事業対象に入らない方が対象です

患者様の声

皆様から大変貴重なご意見やお褒めの言葉をたくさんお寄せいただき、誠にありがとうございます。頂くご意見は全て院長以下、職員全員が目を通しており、真摯に受け止めながら、出来るだけ皆様に満足していただけるよう努力をしていきます。

(H23年5月・6月・7月のアンケートから抜粋)



<患者さまからのご意見>

- 入院がきまっても、なかなか病室へ案内されなかった。
- 医師は、説明が足りないような気がする。
- デイルームにTVがあると、手術中の家族は待ちやすいと思います。
- 予約の時間から診察に入るまでとても長すぎる（予約の意味がない）。
- 食堂が欲しいです（軽食OK）。
- 2ヶ月ぶりに来院しました。予約票を頂きましたが経費のむだだと思えます。

<患者さまから励ましの言葉>

- 朝8時に予約の前に立っている男の人が、とっても親切で子供にも丁寧に対応してくれて良かった。
- 今回で2度目の手術となりますが、酒井先生奥先生いずれも信頼しお任せしました。
- 医療相談員の方は、親身になって頂きました。
- 食事の良いことにびっくり。田舎では比べようがないくらいおいしいものでした。
- 内視鏡の看護師さんが大変親切でした。